

# 広島市総合リハビリテーションセンター “自立訓練施設” って何するところですか



- “自立訓練施設”は、当センターの社会的リハビリテーション部門です
  - おもに、病気や事故などで身体に障害を受けられて、病院での治療やリハビリテーションを終えられた方々に自立訓練(機能訓練)サービスを提供し、社会復帰を支援しています
- 具体的には…
- ご家庭やお住まいの地域、職場などで、できるだけ自立した日常生活を営んでいくためには、何ができるようになればいいのかわかり、ご本人・ご家族とスタッフが一緒に考えて目標を設定します
  - 目標達成に向けて作成した個別支援計画にもとづいて、最長1年6か月、週単位のプログラムなどによる訓練に取り組んでいただきます
  - 生活上のお悩みや社会復帰についてのご相談もお受けしています

## どんな“訓練(トレーニング)”をするんですか？

▶訓練には、日々時間割にそって実施するものや個別の到達段階に応じ設定するものなどがあります ▶時間割の訓練は原則としてグループ単位で行います ▶時間割の訓練にはグループ別に統一メニューで行うものと、グループの中で個別メニューで行うものがあります

たとえば、こんな訓練があります  
(土・日、祝日等はお休みです)

### 体力向上トレーニング

毎朝、ウォーミングアップ体操・血圧測定の後、屋外歩行などで身体に適度な負荷をかけ、**基本的な体力・持久力**の向上をめざします  
【グループ別統一メニューで実施】

### 基礎トレーニング

**基本動作能力**(寝返り・起き上がり・移動動作など)や**日常生活動作能力**(食事・排泄・更衣・入浴・整容など)の向上をめざします  
【グループ内個別メニューで実施】

### 上肢機能トレーニング

利き手に障害がある方が、もう片方の手で、箸操作・書字などができるように練習していただくなど、**腕・手・指など上肢機能**の向上をめざします  
【グループ内個別メニューで実施】

### パソコン(PC)利用トレーニング

**障害に応じたPC操作スキル**を身につけていただいたり、PCの利用経験が少ない方には**基本操作や文書作成・表計算ソフトの基礎**などを学んでいただきます  
【グループ内個別メニューで実施】

### そのほかにも…

食材買出しから後片づけまで通しての調理訓練や公共交通機関を利用しての外出訓練、視覚障害者のための各種訓練、障害者スポーツ体験、コミュニケーション訓練、年1回のバス遠足など、いろいろあります

利用者Aさんのある1日

送迎バスをご利用いただける場合もあります

通所できない方は入所してご利用いただけます

※写真は特定のご利用者を示すものではありません

6:30 起床

7:45 朝食

9:20 朝の会

9:30 ●訓練(第1コマ)

▼ 体力向上トレーニング

10:30

10:45 ●訓練(第2コマ)

▼ 手指作業トレーニング

11:45

12:00 昼食

13:00 ●訓練(第3コマ)

▼ パソコン利用トレーニング

14:00

14:15 ●訓練(第4コマ)

▼ (外部講師をお招きして)園芸療法

15:15

15:30

▼ 自主トレーニング

16:30

18:00 夕食

22:00 消灯

入所の方のみです

入所のみなさんについては、日々の洗濯・掃除など家事作業や健康管理、生活リズム管理なども“訓練”と位置づけています

### お問い合わせ先

ご質問・ご相談・ご見学希望などございましたら、お気軽にお問い合わせください

TEL 082-848-8001(代) センター総合相談室

または

TEL 082-849-2868[直通] 自立訓練施設



## —こころ通信—

### 広島市総合リハビリテーションセンター

〒731-3168 広島市安佐南区伴南一丁目39番1号

TEL (082) 848-8001

FAX (082) 848-8003

E-mail souriha@city.hiroshima.jp

### 理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな生活ができるよう、良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

Topics 理念・基本方針 利用者様の権利 総看護師長コラム  
認定看護師紹介 お知らせ・報告 自立訓練施設紹介

### 基本方針

- 1 中途障害者の皆様の社会復帰や社会参加を促進するため、相談・評価から医療・訓練、就労援助までのリハビリテーションサービスを一貫した計画のもとに提供します。また、保健・医療・福祉の関係機関と連携を図り、地域におけるリハビリテーションを支援します。
- 2 利用者様一人ひとりの立場に立ち、悩みや希望を理解し、誠意を持った細やかな対応と良好な環境整備に努め、個人の権利を尊重したサービスを提供します。
- 3 病院は、専門スタッフが回復期を中心としたリハビリテーションにチームで取り組み、最適のリハビリテーション医療を提供します。また、インフォームド・コンセントを徹底し、安全で信頼される医療を提供します。
- 4 自立訓練施設は、家庭や職場、地域での生活を再構築するための通過型施設として、最適な相談・訓練等のサービスを提供します。

### 利用者の皆様の権利

- あなたには、個人として尊重される権利があります。
- あなたには、良質で安全な医療・福祉サービスを平等に受ける権利があります。
- あなたには、あなたの症状や障害の状態、リハビリテーション計画について十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- あなたには、リハビリテーション計画をあなたの意志で選択し、決定する権利があります。
- あなたには、診断やリハビリテーション医療について、他の医師の意見を聞く権利があります。
- あなたには、プライバシーが守られる権利があります。

### ● 当院の看護科紹介

広島市総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション病院 総看護師長 増岡薫子



長く暑かった夏が過ぎ、彩を増すところ北公園の木々にホッとしていたら、そろそろ冬支度です。四季の移り変わりをゆっくり楽しむ暇はないほど一年はあっという間に過ぎ、当院も開設して5年が過ぎようとしています。前回のこころ通信には、病院機能評価受審に向けて看護科が準備しつつあることを報告しました。あれから2年・・・山あり谷ありですが、看護科は着実に前に向かって進んでいることを宣言したいと思います。そのひとつは、県内でも有数の退職率の低い病院であるということです。これは組織に対するコミットメントが浸透してきている証拠だといえます。ただ、残念なことは、毎年の職務満足調査で「変革力」「創造力」の部分が少しずつしか上昇していないことです。自己効力に対する取り組みにまだまだ工夫がいるのかもしれない。

今から4年前、私は看護科のビジョンとして次のようなことを考えました。

### Vision (5年後のあるべき姿) 2009年4月

2014年には、中途障害者に対する回復期医療を提供する病院として、在宅復帰率75%・3点以上の日常生活指標改善50%の成果を出す。

質の高い看護を提供するため、看護管理・摂食嚥下看護・脳卒中リハビリテーション看護・家族看護等の分野でリソースナースを確保するとともに、主体的に学び自律して看護を提供する。

このビジョンを考えた時は、少しでも近づけるようにがんばるという意味で少々高い目標値として内容を考えたのですが、かなり近づいてきました。認定看護師2名、認定看護管理者2名に続き、来年には2名の全国回復期リハ認定看護師が誕生の予定です。また、医療安全や感染管理、新人教育やリーダーシップなどの専門研修の修了者も20名以上にのぼり、リソースナースが確実に確保できています。そろそろ看護科のビジョンもワンランク高いステージへと書き換える頃かもしれません。「Inspire the Next...」(これはある企業のキャッチコピーです)のように「創造性」と「革新性」にあふれた新たな看護科を目指し、広島市総合リハビリテーションセンター看護科のなすべきことを的確に表現しなければいけないと考えています。

# PICKUP 認定看護師紹介

## 【看護科の理念】

私たちは、利用者の皆様の立場を尊重し、「その人らしい生活」の再構築を支援するため質の高いリハビリテーション看護を提供します。

## 【看護科の基本方針】

1. 利用者様の自己決定を尊重し、誠意を持った細やかな対応をします。
2. 事故防止に努め、安全な看護を実践します。
3. チーム医療の一翼を担い、専門性の高い科学的根拠に基づいた看護を提供します。
4. 急性期および地域医療との連携を強め、満足していただける看護を実践します。

**看護科スタッフは1階病棟・2階病棟・外来・自立訓練施設を合わせて56名います。今回はその中でも中心的な役割を担う認定看護師2名を紹介します。**

**認定看護師とは、「日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者をいう」(日本看護協会ホームページより)と定められています。全21認定看護分野あり、全国で10878名(平成24年12月現在)が日々活躍されています。**

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師(2012年取得)



### 山根 ゆかり (やまね ゆかり)

YUKARI YAMANE

#### ●脳卒中リハビリテーション看護認定師とは？

- ・脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア
  - ・活動性維持・促進のための早期リハビリテーション
  - ・急性期・回復期・維持期における生活再構築のための機能回復支援
- 脳卒中リハビリテーション看護における上記の知識と技術を持って行う認定看護師  
【全国で登録者数290名、うち広島県の登録者数は7名】(平成24年12月現在)

#### ●認定看護師を目指すきっかけは？

脳卒中患者との出会いは広島市民病院の救命救急センター（NCU）が始まりでした。急性期病院での経験しかなく、回復期病院で多職種と協働する中で看護師としての役割を見失いかけてました。また、回復期は入院が長期であり担当看護師の関わりが患者・家族にとって今後の生活に大きく影響するのではないかと責任の重さを感じ悩む時期が続きました。上司に相談するなかで認定看護師を薦められ、急性期・回復期の事例を振り返ったとき、もっと自分にできることはなかったのかと無力さを強く感じました。そして、もっと個別性・専門性の高い看護を実践し患者のQOLの向上に努めたいという思いが強くなり認定看護師を目指すそうと思いました。

#### ●病院でどのような活動をされていますか？

今年度脳卒中リハビリテーション看護認定となり、まだまだ活動を確立するまでにはいたってないのが現状です。現在は、脳卒中再発予防に関する研修会の開催や入院患者・家族を対象にした生活指導を中心に実践する機会が多くなっています。10月より毎週水曜日に1階病棟活動日としていただきました。病棟スタッフや患者・家族の面識がない中での実践は難しいですが、少しずつスタッフから相談をいただき、実践・継続可能な方法を一緒に考え提案させていただくようにしています。今後も自分の存在を少しずつ理解し活用していただけるようにスタッフの方と関わらせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

#### ●今後の目標はありますか？

院内では、患者・家族に対し、脳卒中再発予防へ向けた生活指導を定期開催できるシステム作りを目指しています。また、院外では地域連携を通して生活期の方との交流を進めていきたいです。これは、現在私たちが行っている回復期看護の評価を直接感じ、振り返り見直すことで自己満足に終わらない患者・家族にとってよりよい看護に繋がると考えます。また、急性期の方との交流を深めることで急性期から回復期まで一貫した看護の提供ができるようなネットワーク作りを目指していきたいと思っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として、他職種と協働・連携しながら患者・家族が望む生活再構築支援を行っていききたいと思っています。

## 摂食・嚥下障害看護認定看護師(2010年取得)



### 川端 直子 (かわばた なおこ)

NAOKO KAWABATA

#### ●摂食・嚥下障害看護認定看護師とは？

- ・摂食・嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防
  - ・適切かつ安全な摂食・嚥下訓練の選択および実施
- 摂食・嚥下障害看護における上記の知識と技術を持って行う認定看護師  
【全国で登録者数373名、うち広島県の登録者数は26名】(平成24年12月現在)



#### ●認定看護師を目指すきっかけは？

色々な病院で勤務してきた中で、「食べることへの援助」はどこでも必要な援助でした。脳血管障害患者さんや頭頸部がん患者さんが、「口から食べたい」という強い思いを抱いていた時に、いろいろ試行錯誤しながら看護を行っていました。そんな時に摂食・嚥下障害看護という分野に興味を持ち始めました。今後も、どこにいても役立つ知識と技術を身に付けたいと考え、認定看護師を目指しました。

#### ●病院でどのような活動をされていますか？

週2日(水曜日・木曜日)で、病棟に入院中の摂食・嚥下障害患者さんに対して、摂食・嚥下評価を行い、看護師が継続して行える援助を考えながらケア内容を計画して実践しています。具体的には、患者さんに適した食事の提供方法の選択・摂食・嚥下リハビリテーション・口腔ケア・呼吸ケア・胃ろうケア・環境調整・退院支援などを行っています。ほかの看護師から担当患者さんのケアに関する相談を受けて、必要と考えるケアについてのアドバイスなども行っています。また、院内外で研修の講師や、摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程の実習指導を行っています。

#### ●今後の目標はありますか？

目指すのは、看護師が誰でも摂食・嚥下障害看護を適切に実践できるようになることです。少しずつでも仲間作りをして、より質の高い摂食・嚥下障害看護の提供をしていきたいと思っています。

# 学会発表報告

**当院看護科の取り組みを様々な学会で発表し、看護の振り返りや向上に努めています。今回は大阪で開催された「第24回日本リハビリテーション看護学会」で発表を行った2名の看護師に感想を伺いました。**

### その人らしさを支える温かい看護を目指す

私は重度摂食嚥下障害患者についての事例報告を行いました。回復期リハビリの中で重度の摂食嚥下障害患者に対して看護師が主体性を持って継続介入できることは何かが自己の課題です。

学会に参加して、看護の独自性やチーム医療の中で率先して看護アプローチしていくことの重要性を再認識しました。チーム医療を推進する上で看護の専門性を活かしリーダーシップを発揮し、その人らしさを支える温かい看護を提供していきたいという思いが強くなりました。今後も日々の看護を通して研究的視点を持ち、検証していくことで看護の質向上へつなげていきたいと思っています。

1階病棟看護師 花野紗矢香

### よりよいチームアプローチ方法の構築に向けて

摂食・嚥下障害と高次脳機能障害がある患者さんへの関わりを通して、他職種と共に共通の目標に向かってのチームアプローチについて学会発表しました。

患者さんに関わる各職種がそれぞれの専門性を理解し、共通目標を達成するために毎日のカンファレンスで、看護師間の意思決定を多職種に伝達し、実際のケアでの結果をチームで共有するとともに、多職種と一緒に評価・修正する。そして今後のケア・リハ計画の調整を行うことの重要性を再確認できました。今後も、よりよいチームアプローチ方法の構築に向けて取り組んでいきたいと思っています。

2階病棟看護師 甲斐貞子

**当院看護科では、今後も質の高いリハビリテーション看護を提供できるように努めます。**

**私たちと一緒に『いっぽいっぽ』歩いていきましょう！**